



宮町で見つかった紫香楽宮の朝堂建物
(中央下は現在の公民館)



今も残る礎石跡

平成12年には、盆地中央で巨大な建物跡が発見されました。この区域には、左右対称に配置された長大な2棟の南北棟と中央の複数の東西棟が見つかり、『続日本紀』の天平17年(745)正月7日の条に「百官の主典以下を朝堂で宴す。」と記載されている「朝堂」がこの遺構に相当すると考えられます。

しかし一方で、発掘調査の進展によって『続日本紀』の記述に一致しない点があることも判明してきました。

宮町遺跡や鍛冶屋敷遺跡では、奈良時代の遺構が建替えられていることが確認され、記録どおり紫香楽宮の存続時期を3年あまりの短期間とするには、問題があるようです。

また、関連遺跡の調査で明らかになった宮町盆地外の役所群の存在は『続日本紀』の記述される「市」の存在や『正倉院文書』の藤原豊成邸の移築の様子を考慮すると紫香楽宮が単なる離宮ではなく市街地を持つ可能性も考える必要があります。



紫香楽宮朝堂の復元建物CG

復元された梵鐘の内型(滋賀県教育委員会 提供)



鑄造作業想定図(滋賀県教育委員会 提供)

